

レーチェル ピセ／ピットフォード

取扱説明書

品質保証書付

赤ちゃんをいちばんに、そして社会にもやさしく。—— ベビーコンシャスケア

BABY CONSCIOUS CARE

- お子さまの安全のため、ご使用前に必ず本書を読み、十分ご理解のうえ、記載された内容に従い正しくお使いください。
- 本書は、チャイルドシートをお使いになる車の中など、すぐに読める場所に保管してください。
- チャイルドシートを他のお客さまにお譲りになる場合は、必ず本書もあわせてお渡しください。
- 安全運転を励行してください。



も く じ

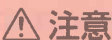
■安全にお使いいただくために	1	■車への取り付けかた	7
お使いいただけるお子さま・車の座席などの条件	1	■後向きの取り付けかた	8
緊急の場合には	3	■前向きの取り付けかた	10
■各部のなまえ	4	■ロックングクリップの取り付けかた	12
■車に取り付ける前に	5	■取り付け完了チェックのしかた	13
お子さまの座らせかた	5	こんなときには	13
リクライニングの取り扱いかた	5	■お手入れの方法	14
肩部ベルト通し穴位置の決めかた	6	■品質保証書	17
幼児用ベルトの長さ調整	6		

安全にお使いいただくために

このたびは、コンビチャイルドシートをお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用の前に、この「安全にお使いいただくために」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

●ここに示した注意事項と、お子さま、車の座席の条件は、チャイルドシートとしての機能を発揮させて、安全に正しくお使いいただくためのものです。「危険」、「警告」、「注意」の表示は、これらの注意事項が守られなかった場合に予想される、危害・損害の、切迫度や大きさにより区分したもので、大変重要な内容です。必ずお守りください。

チャイルドシートは、交通事故などの場合にお子さまの傷害を軽減することを目的としており、必ずしも事故からお子さまを無傷で守るものではありません。

表示	表示の内容
 危険	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容です。
 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が起こる可能性があります。

お使いいただけるお子さま・車の座席などの条件

次の3つの条件をすべて満たすお子さまに使っていただけます

- 体重： 7kg～18kg未満。
(参考年齢＝生後4カ月～4歳ごろ)
- 身長： チャイルドシートに座らせたとき、後頭部が背もたれから上に出ない。
- 首がしっかりすわったお子さま。

取り付けできない座席があります

- シートベルトが座席の中間から出ている座席。

※チャイルドシートのシートベルト通し穴位置よりも前方向からシートベルトが出ている座席。



- シートの中央が極端に盛り上がっていて、取り付けたときに不安定になる座席。



- シートベルトのついていない座席。



- 座席の奥行きが45cm以下の場合。(後向きには取り付けられません)

- パッシブシートベルトのついた座席。

- 進行方向に対して横向き、または後向きの座席。



このように取り付けできます

- 後向き：体重7kg～10kg未満のお子さま。

前座席



後座席



- 前向き：体重9kg～18kg未満のお子さま。

前座席

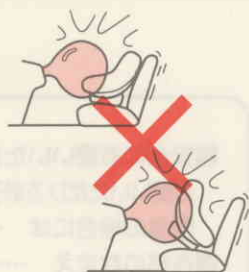


後座席



△危険

●エアバッグのついた座席ではエアバッグが装着された座席にチャイルドシートを装着し使用することはおやめください。衝突時、エアバッグの作動により大きな衝撃を受け、危険な状況になります。エアバッグの装着されていない座席で使用してください。



Q&Aコーナー

Q/エアバッグとは

A/事故などの衝突時に、車に内蔵のエアバッグが瞬間的に膨張し、とくに頭部などへの衝撃を緩和する装置。

Q/パッシブシートベルトとは
(オートマチックシートベルト)

A/車の座席に座ってドアを開めると、自動的にシートベルトを装着してくれる装置のこと。とくに輸入車に多くみられる。

⚠危険

次のような使いかたは、チャイルドシートが本来の機能をはたさず、危険をまねく恐れがあります

- 使用条件に適合しないお子さま・座席などでは使用しないでください。



- お子さまがチャイルドシートの上で立ったり、中腰になったり、正座をしないように注意してください。座らせるときには、お子さまに胸当てパッドを装着してベルトを差し込み、差し込み金具がしっかり固定されていることを確認してください。



- 車のシートベルトおよび座席の種類などにより、取扱説明書どおりにチャイルドシートをしっかりと固定できないときは、使用しないでください。



- 車に取り付けるときは、必ずシートベルトで固定してください。ひもなど、シートベルト以外のもの



⚠警告

お子さまを車内に1人で放置することはおやめください。日差しの強い日などには車内の温度が高くなり、お子さまが脱水症状になる恐れがあります。また予期せぬ事故のもととなります。必ず保護者が同乗し使用してください。

次のような使いかたは、チャイルドシートが本来の機能をはたさず、危険をまねく恐れがあります

- 衝突事故や製品を落下させたときなど、1度でも強い衝撃を受けたチャイルドシートは、外見上の破損がなくても絶対に使用しないでください。



- 幼児用ベルトをたるませて使用するとベルトが首に巻きつき窒息する恐れがあります。

- 幼児用ベルトは正しい長さに調節してください。(P6参照)

- 左右の差し込み金具を確実にバックルに差し込んでください。(P5参照)

- 肩部の幼児用ベルトをゆっくりと引き、その後ベルトが伸びきったままにならないことをご確認ください。



- 車のシートベルトに傷がある場合は、その座席に取り付けしないでください。

- 幼児用ベルトに傷が付いたときは、必ず新しいベルトに取り替えてください。(お買い上げの販売店または弊社のお客さま相談室にお問い合わせください)



- お子さまがバックルボタンを押してしまう可能性があります。ときどき差し込み金具がバックルからはずれていないことをご確認ください。差し込み金具がはずれていると幼児用ベルトが首に巻きつき窒息する恐れがあります。



次のような使いかたは、同乗している方やお子さまに危険をまねく恐れがあります

- お子さまが乗っていないときでも、チャイルドシートは必ずシートベルトで常に座席に固定してください。



- シフトレバーやパーキングブレーキなどの運転操作に支障をきたす場合は、助手席にチャイルドシートを取り付けしないでください。



- 前座席にチャイルドシートを後向きに取り付けて助手席側のドアミラーが見えにくいときは、後座席に取り付けてください。



- 2ドアや3ドアの車で後座席に人が乗る場合には、緊急時の脱出のため、チャイルドシートを助手席に取り付けしないでください。

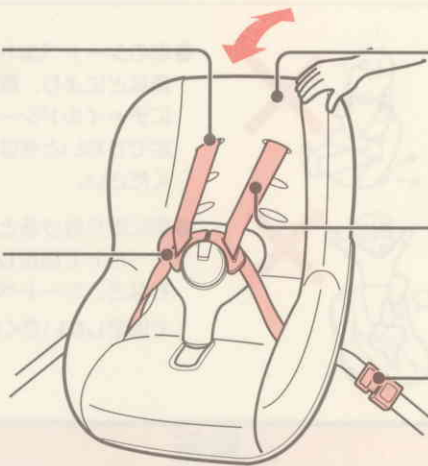


⚠警告

チャイルドシートの本来の機能をはたすため、走行前や走行中の停車時、走行後には、下記の事項を点検してください。

幼児用ベルトが正しい肩部ベルト通し穴の位置にセットされていること

差し込み金具は「カチッ」と音がするまでバックルに差し込まれていること



チャイルドシートが車の座席にしっかりと固定されていること(本体を前後にゆすり、確認してください)

幼児用ベルトにねじれやたるみがないこと

シートベルトのタングプレートが「カチッ」と音がするまでバックルにしっかりと差し込まれていること

⚠注意

●チャイルドシートに直接日光が当たると、本体や差し込み金具などが熱くなることがあります。お子さまを座らせる前に各部にさわって、やけどをしないことを確認してから使用してください。夏場や日差しが強いときは日陰に駐車するか、本体に布などのカバーをかけてください。



●走行中は、チャイルドシートの操作や調整をしないでください。また、同乗している他のお子さまがチャイルドシートにさわらないようにしてください。



●車の中のチャイルドシート以外の目的には使用しないでください。通常の椅子として使用すると、転倒しけがの原因となります。



●チャイルドシートを改造したり、本書に記載されていない取り扱いかたでは使用しないでください。



●車の座席にクッション、座ぶとんなどを敷いたままでチャイルドシートを取り付けないでください。



●ロックングリップは、チャイルドシートを固定する以外の目的で使用しないでください。



●チャイルドシートを風雨にさらすことはおやめください。

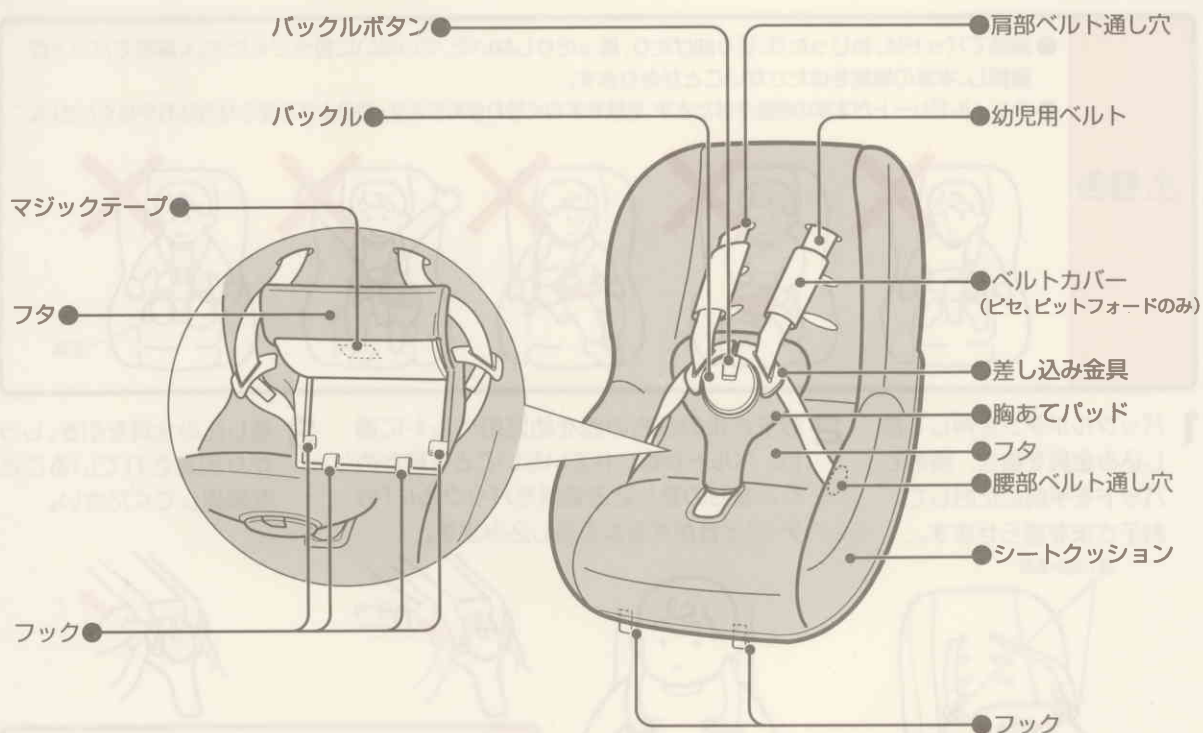
緊急の場合には

事故など緊急時は、あわてず、保護者の方が胸当てパッドのバックルボタンを押し、差し込み金具を引き抜き、幼児用ベルトをはずして、すみやかにお子さまをチャイルドシートから降ろし、車外に脱出させてください。



各部のなまえ

正面

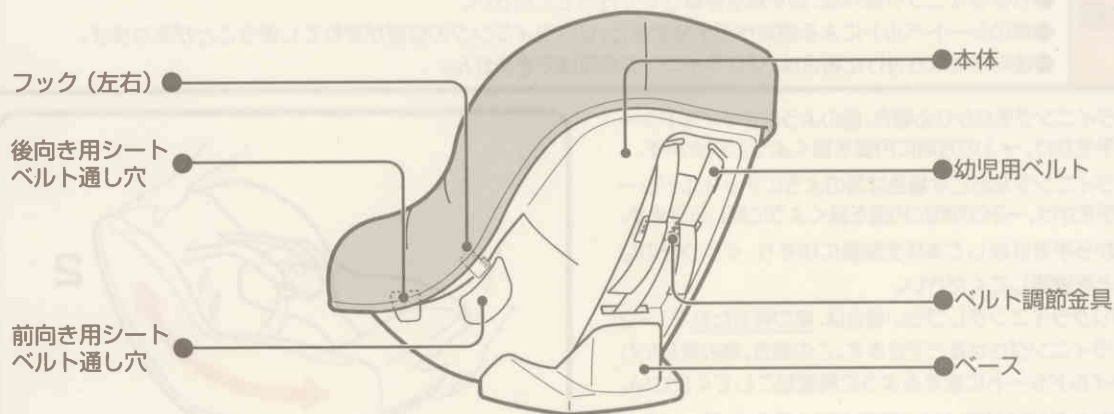


●ロックングクリップ



ロックングクリップはシートベルトのゆるみを防ぐために使います。(使い方はP12をご覧ください。)

背面・側面



車に取り付ける前に

お子さまの座らせかた

車に取り付ける前に、バックルの留めかたとはずしかたを確認し、幼児用ベルトの通し穴位置、長さを適正な位置に合わせてください。

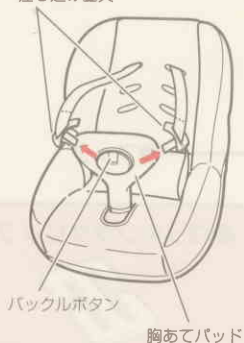
⚠ 警告

- 胸あてパッドは、ねじったり、折り曲げたり、乗ったりしないで、ていねいに扱ってください。胸あてパッドが破損し、本来の機能をはたさないことがあります。
- チャイルドシートが本来の機能をはたさず、危険をまねく恐れがあります。図のような座らせ方はおやめください。



1 バックルボタンを押して差し込み金具を抜き、胸あてパッドを手前にたおして、お子さまを座らせます。

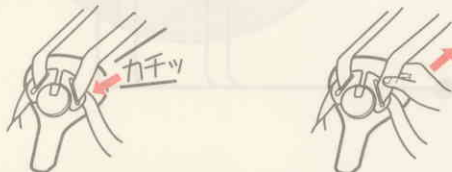
差し込み金具



2 お子さまの左右の腕を幼児用ベルトに通し、ベルトがねじれていないことを確かめて、左右の差し込み金具をバックルに「カチッ」と音がするまで差し込みます。



3 差し込み金具を引き、しっかり固定されていることを確認してください。



⚠ 警告

- 差し込み金具がバックルに完全に差し込まれていないと、本来の機能をはたさず危険です。
- 差し込み金具は確実に固定してください。差し込み金具がはずれると、ベルトが首に巻きつき窒息するなどの恐れがあります。

リクライニングの取り扱いかた

⚠ 注意

- 座席の種類により、シートベルトをゆるめないとリクライニングできない場合があります。
- リクライニング操作は、必ず車を停車させて行ってください。
- 車のシートベルトによる固定が不十分ですと、リクライニングの位置がずれてしまうことがあります。
- 後向きに取り付けた場合は、リクライニング操作はできません。

- 1 リクライニングをねかせる場合、図のようにチャイルドシートに手をかけ、→1の方向に円弧を描くように引きます。
 - 2 リクライニングをおこす場合は図のようにチャイルドシートに手をかけ、→2の方向に円弧を描くように押し込みます。
 - 3 本体から手をはなして本体を前後にゆすり、ぐらつきのないことを確認してください。
- 本体がリクライニングしづらい場合は、車の背もたれを1～2段リクライニングさせるとできます。この場合、車の背もたれをチャイルドシートに接するように再度起こしてください。
 - 車の背もたれがリクライニングできない場合は、チャイルドシートのリクライニング操作ができないことがあります。



肩部ベルト通し穴位置の決めかた

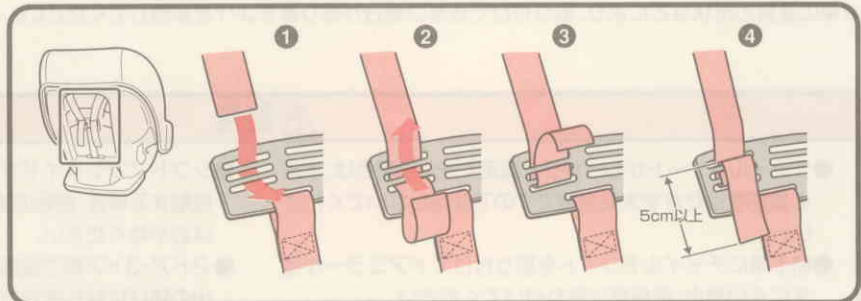
チャイルドシートを取り付ける前に、必ず肩部ベルト通し穴の位置を決めてください。



- 幼児用ベルトは、着座したお子さまの肩のすぐ上の肩部ベルト通し穴に通します。
- 幼児用ベルトがお子さまの両肩にフィットしていないと、衝撃が加わったときに肩からはずれ、チャイルドシートとして機能しません。



調整の手順



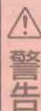
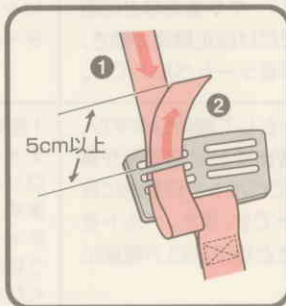
- 1 幼児用ベルトをベルト調節金具から引き抜き、お子さまにあった肩部ベルト通し穴に入れ直します。
- 2 図のような手順で、幼児用ベルトを背面のベルト調節金具に取り付けます。

幼児用ベルトの長さ調整

お子さまの体型・肩部ベルト通し穴の位置に合わせ、幼児用ベルトが体にフィットするように幼児用ベルトの長さを調整します。

幼児用ベルトを短くするときには

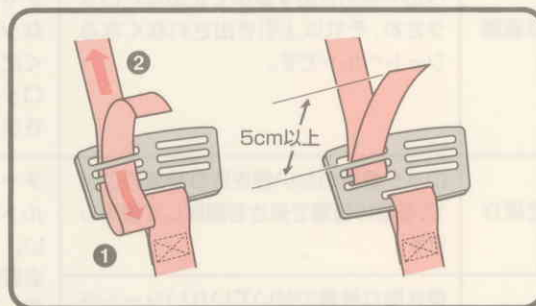
矢印①の方向に幼児用ベルトを引き、②方向に引っ張ります。



- 幼児用ベルトがベルト調節金具からはずれることを防ぐために、図のように必ず幼児用ベルトを5cm以上余裕をとってセットしてください。
- 幼児用ベルトをたるませて使用すると、ベルトが首に巻きつき窒息する恐れがあります。

幼児用ベルトをゆるめるときには

矢印①の方向に幼児用ベルトを引き、たるみをもたせ、②方向に引っ張ります。



肩ベルトの点検

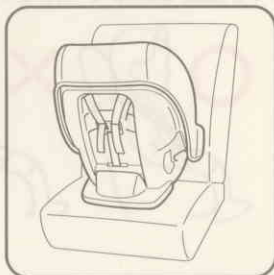


肩ベルトの張り具合を、お子さまと肩ベルトの間に大人の手のひらが入るように調整してください。

車への取り付けかた

お子さまの体重により取り付けの向きが変わります。下記の条件にしたがい向きを選んでください。

- 体重7kg～10kg**
後向き取り付け



- 体重9kg～18kg**
前向き取り付け



※車の座席の形状などにより、取り付けできない場合があります。P1を参照してください。

⚠ 警告

- チャイルドシートがしっかりと固定できない場合は、本来の機能をはたさず大変危険ですので使用しないでください。
- 助手席にチャイルドシートを取り付けてドアミラーが見えにくい場合、後座席に取り付けてください。
- お子さまが乗っていないときでも、チャイルドシートは必ずシートベルトで常に座席に固定しておいてください。
- シフトノブやサイドブレーキなどにチャイルドシートが接触する場合、運転の妨げになりますので助手席での使用はおやめください。
- 2ドア・3ドア車で後座席に人が乗車する場合、緊急時の脱出の妨げになりますので助手席にはチャイルドシートを取り付けしないでください。

車のシートベルトの種類により、ロックングクリップの使用の有無があります。

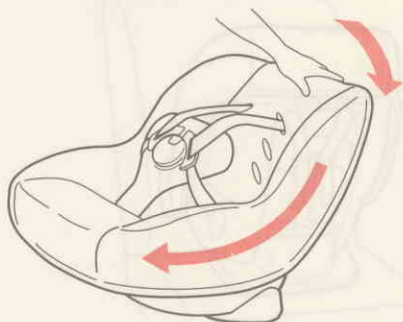
シートベルトの種類	特 徴	取り付け上の注意点
●ELR付き3点式シートベルト ●ELR付き2点式シートベルト (ELRとは緊急ロック式ベルト巻き取り装置のことです)	通常は、ゆっくりと引くとベルトが自由に出入りし、急ブレーキや衝突などの衝撃を感知したときだけ固定機能が働き、ベルトが固定されるシートベルトです。	3点式2点式ともに、必ずロックングクリップを取り付けてください。 チャイルドシートがぐらつき危険です。
●A/ELR付きシートベルト (A/ELRとはALRとして使用できるELR巻き取り装置のことです)	通常はELRベルトとして機能しますが、ベルトを全部引き出すとELR機能が解除され、戻す方向にベルトが自動的に締まるシートベルトです。また、ベルトをすべて引き戻したときにはELR機能に戻ります。	1度シートベルトを全部引き出してから、チャイルドシートを固定してください。 ロックングクリップがなくても固定できます。 チャイルドシートがななめになってしまう場合は、ロックングクリップを使用してください。
●ALR付きシートベルト (ALRとは自動ロック式巻き取り装置のことです)	ベルトを引き出す途中で止めるとロックされ、それ以上引き出されなくなるシートベルトです。	チャイルドシートを固定するのに十分なシートベルトを引き出して固定してください。 ロックングクリップがなくても固定できます。
●NLR付きシートベルト (NLRとは非ロック式ベルト巻き取り装置のことです)	ロック機能のない巻き取り装置のことです。任意の位置で長さを調節して使用します。	チャイルドシートに合わせてシートベルトの長さを調整し、固定してください。 必要に応じて、ロックングクリップを使用してください。
●マニュアル式シートベルト	巻き取り装置の付いていないシートベルトのことです。	



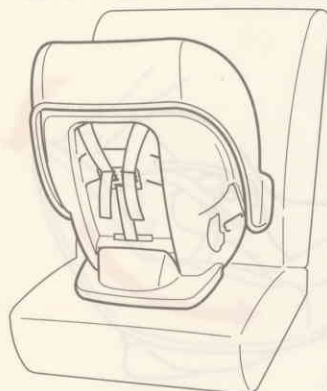
後向き取り付けかた

3点式シートベルトの座席の場合

1 リクライニングを一番寝た状態にします。(「リクライニングの取り扱いかた」P5参照)

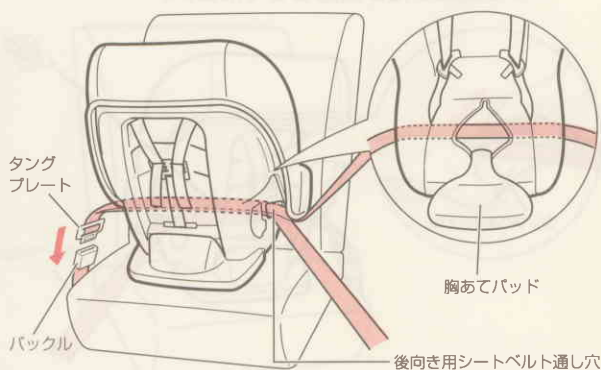


2 チャイルドシートを後向きに座席に乗せます。



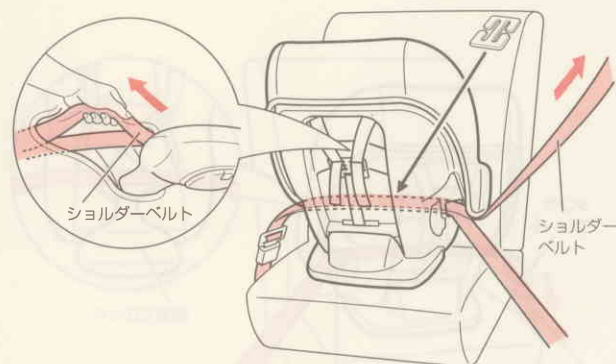
3 図のように、車のシートベルトを後向き用シートベルト通し穴から入れ、シートクッションの下を通して、反対側の後向き用シートベルト通し穴から引き出し、タングプレートバックルに差し込みます。

※シートベルトにねじれのいないことを確認してください。



4 車のショルダーベルト(肩にかかるシートベルト)を強く引いてチャイルドシートを固定し、シートクッションのすきまからロックングクリップを取り付けます。(「ロックングクリップの取り付けかた」P12をご覧ください)

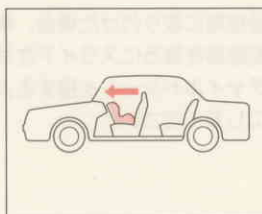
※最後に「完了チェック」(P13)にしたがい、しっかり固定したか確認してください。



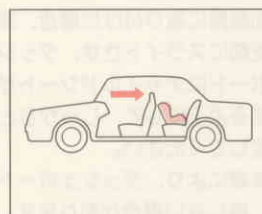
確実に固定するために

前座席に取り付けた場合、座席を前にスライドさせ、ダッシュボードとチャイルドシートと接するようにして、しっかりと固定してください。

※車により、ダッシュボードに接しない場合があります。



後座席に取り付けた場合、車の前座席を後ろにスライドさせ、チャイルドシートと接するようにしてください。



※ベースと車のシートとの間にすき間ができる場合は、まるめたバスタオルなどはさんでしっかり固定してください。

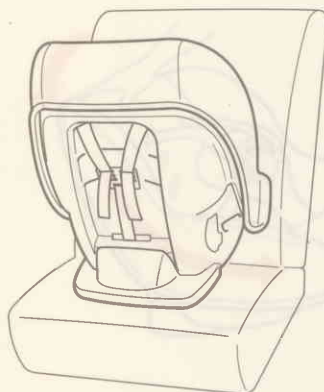


2点式シートベルトの座席の場合

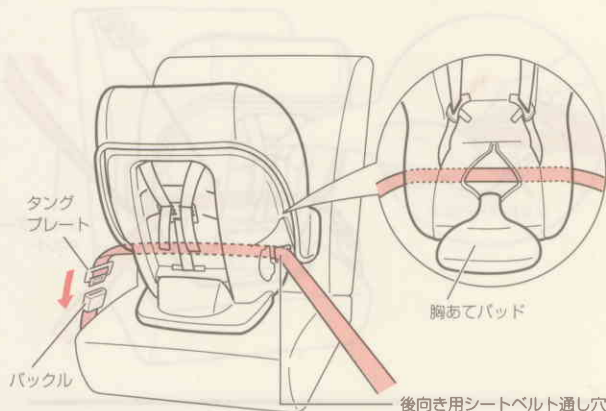
- 1** リクライニングを一番寝た状態にします。(「リクライニングの取り扱いかた」P5参照)



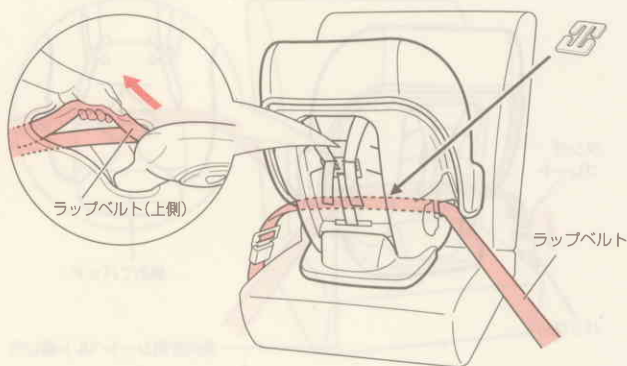
- 2** チャイルドシートを後向きに座席に乗せます。



- 3** 車のシートベルトを後向き用シートベルト通し穴から入れ、シートクッションの下を通して、反対側の後向き用シートベルト通し穴から引き出し、タングプレートをバックルに差し込みます。
※シートベルトにねじれのないことを確認してください。



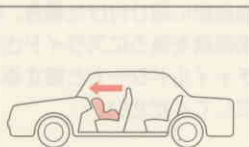
- 4** 車のラップベルトの上側のベルトを強く引き、チャイルドシートを固定します。シートベルトがゆるむ場合は、ロッキングクリップを取り付けます。(「ロッキングクリップの取り付けかた」P12をご覧ください)
※最後に「完了チェック」(P13)にしたがい、しっかり固定したか確認してください。



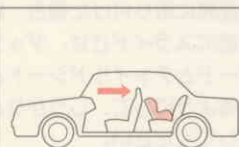
確実に固定するために

前座席に取り付けた場合、座席を前にスライドさせ、ダッシュボードにチャイルドシートが接するようにして、しっかりと固定してください。

※車により、ダッシュボードに接しない場合があります。



後座席に取り付けた場合、車の前座席を後ろにスライドさせ、チャイルドシートと接するようにしてください。

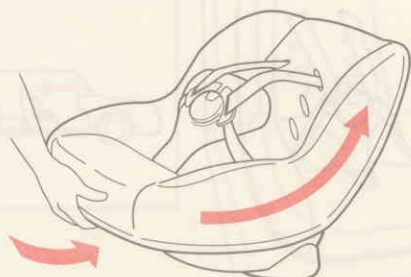




前向きを取り付けかた

3点式シートベルトの座席の場合

1 リクライニングを一番起こした状態にします。
(「リクライニングの取り扱いかた」P5参照)

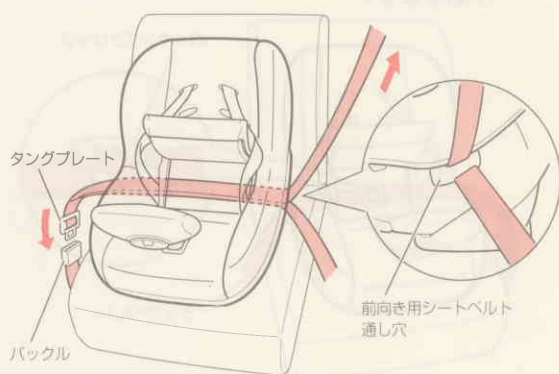


2 チャイルドシートを前向きに座席に乗せます。
(前座席に取り付ける時はなるべく座席を後ろにさげてください)



3 車のシートベルトを、前向き用ベルト通し穴に通し、反対側の前向き用シートベルト通し穴から引き出します。

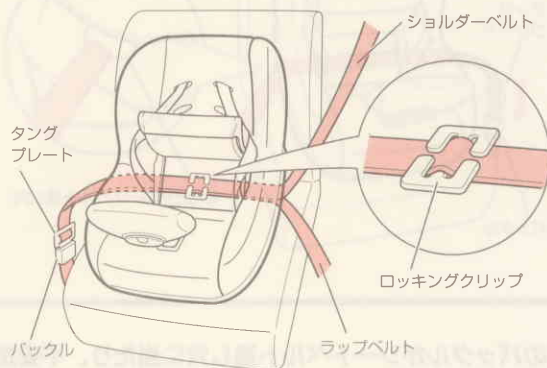
※このときシートクッションの下にあるフタを開け、ベルトにねじれないことを確認してください。



4 タングプレートをバックルに「カチッ」と音がするまで差し込みます。

チャイルドシート本体に体重をかけながら、ベースを座席の奥に押しつけます。この状態で車のショルダールベルトを強く引いてチャイルドシートを固定し、車のシートベルト(ショルダールベルトとラップベルト)にロックングクリップを取り付けます。(「ロックングクリップの取り付けかた」P12をご覧ください)

※最後に「完了チェック」(P13)にしたがい、しっかり固定したか確認してください。固定が不十分ですと、リクライニングの位置がずれる場合があります。



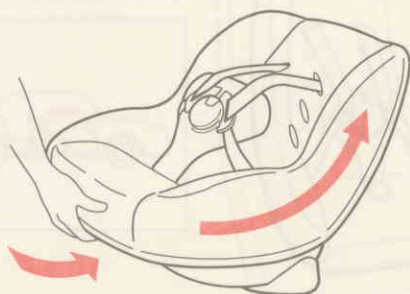
車のバックルがシートベルト通し穴に当たり、不安定な場合

「こんなときは」(P13)をご覧ください。

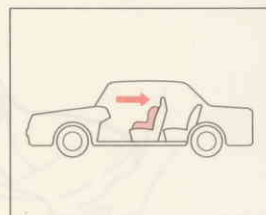
前向き取り付けかた

2点式シートベルトの座席の場合

- 1** リクライニングを一番起こした状態にします。
(「リクライニングの取り扱いかた」P5参照)



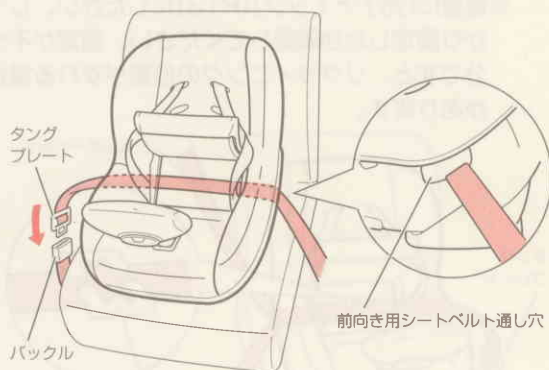
- 2** チャイルドシートを前向きに座席に乗せます。
(前座席に取り付ける時はなるべく座席を後ろに下げてください)



- 3** 車のシートベルトを、前向き用ベルト通し穴に通し反対側の前向きシートベルト通し穴から引き出します。

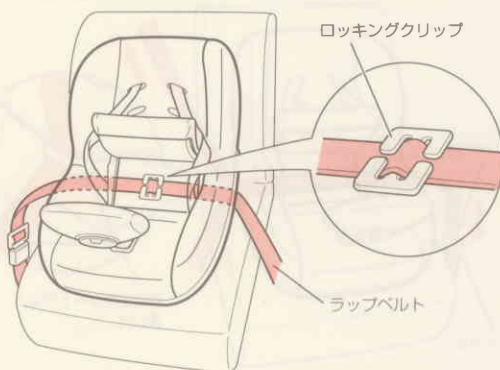
※このときシートクッションの下にあるフタを開け、ベルトにねじれがないことを確認してください。

タングプレートを、「カチッ」と音がするまでバックルに差し込みます。



- 4** チャイルドシート本体に体重をかけながら、ベースを座席の奥に押しつけます。この状態でラップベルトの上側のベルトを強く引いてチャイルドシートを固定します。ベルトがゆるむ場合はロッキングクリップを取り付けます。(「ロッキングクリップの取り付けかた」P12をご覧ください)

※最後に「完了チェック」(P13)にしたがい、しっかり固定したか確認してください。固定が不十分ですと、リクライニングの位置がずれる場合があります。



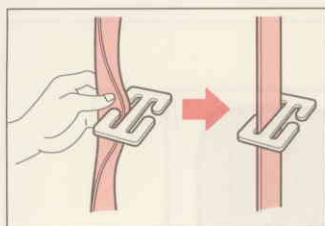
車のバックルがシートベルト通し穴に当たり、不安定な場合

「こんなときは」(P13)をご覧ください。

ロッキングクリップの取り付けかた

3点式シートベルトの場合には

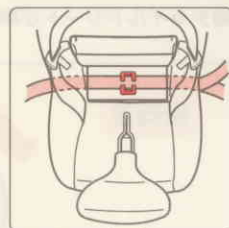
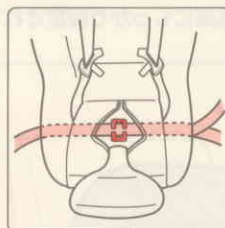
右図で示した場所にロッキングクリップを取り付けます。



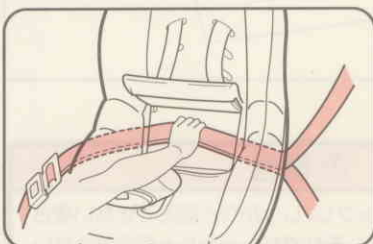
※ ロッキングクリップにシートベルトを通すときは、左図のようにシートベルトを2枚重ねで二つ折りにし、溝に滑り込ませると簡単に入ります。

⚠ 注意

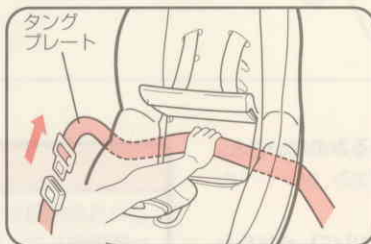
後向き取り付け時にロッキングクリップを取り付けた場合は、シートクッションで確実にとおってください。車内の温度が高くなると、やけどをする恐れがあります。



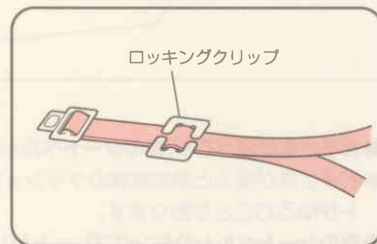
取り付けの手順



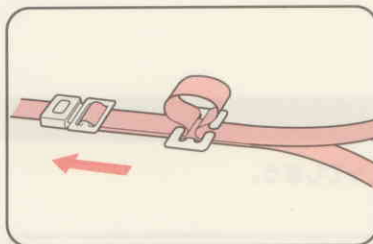
1 車のシートベルト(腰にかかるシートベルトと肩にかかるシートベルト)がずれないようにいっしょにつかみます。



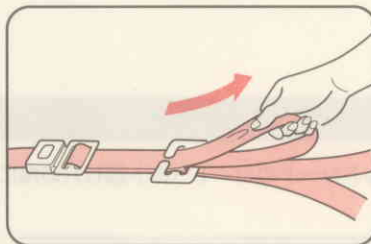
2 その状態のまま、1度タングプレートをはずします。



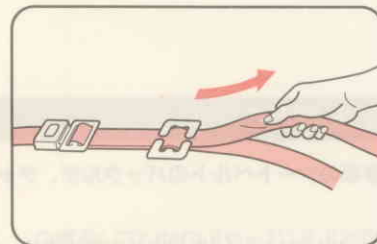
3 図のように、ロッキングクリップをシートベルト(ショルダーベルトとラップベルトを2枚いっしょ)に取り付けます。



4 ここで、ショルダーベルトを少しゆるめ、片手が入るほどの輪をつくり、シートベルトをシートベルト通し穴に通してバックルに留め直します。



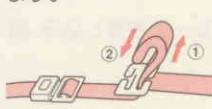
5 ショルダーベルトがロッキングクリップから抜けられないように注意しながら、図の方向にショルダーベルトを両手で強く引いてチャイルドシートを固定します。



6 最後にショルダーベルトを引いて、たるみをなくします。

ELR付き2点式ベルトの場合には

タングプレートをバックルに差し込み、車のシートベルトを全部引き出して、図のような手順でロッキングクリップを取り付けます。



ロッキングクリップにシートベルトを2枚重ねて通します。



③の→方向に上側のシートベルトを強く引き、次に上にたるむシートベルトを④の→方向に引きます。



⑤最も引いた状態で1度バックルをはずします。⑥



シートベルトをロッキングクリップにかけ、⑦の→方向に強く引き⑧のたるみをとります。

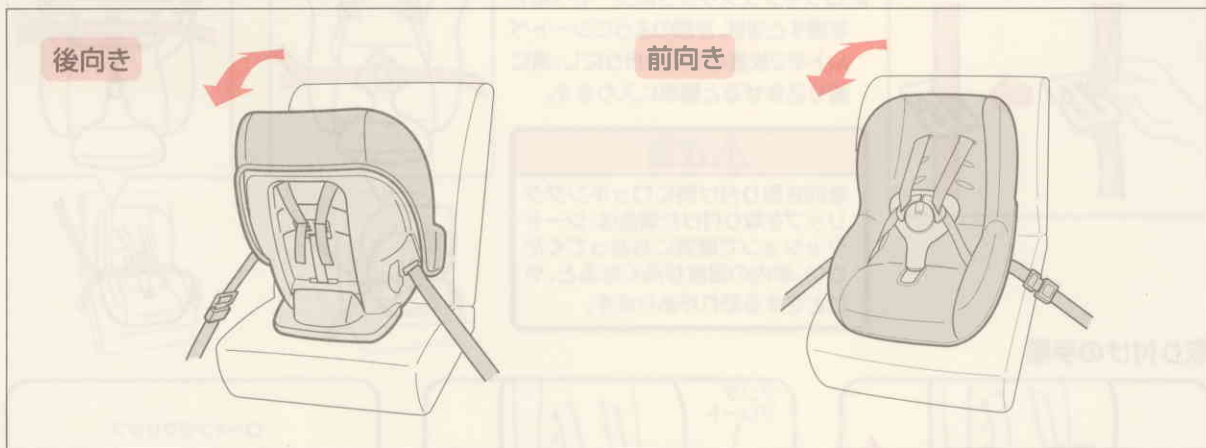


最後に、本体を座席に押しつけながらタングプレートをバックルに差し込みます。⑨

取り付け完了チェックのしかた

取り付けが終わったらチャイルドシートがしっかりと固定されているか、次のことを確認してください。

●チャイルドシートが車の座席にしっかりと固定されているか、本体を前後にゆすって確認してください。



- お子さまが座っても、車のシートベルトにゆるみのないこと。
※お子さまが座ると車の座席のクッションが沈み、シートベルトがゆるむことがあります。
- 車のシートベルトのタングプレートがバックルにしっかりと差し込まれていること。
- チャイルドシートのフタのマジックテープが確実にしまるようフタの先端部を上から強く押してください。

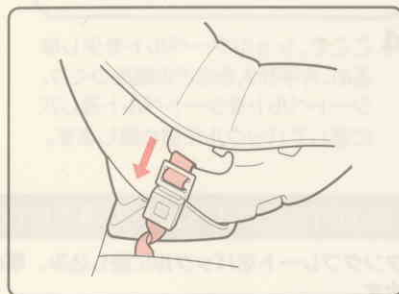
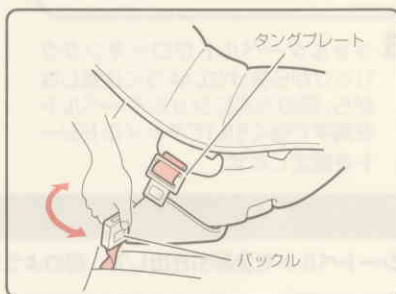
⚠ 警告

これらの項目をチェックし、しっかりと固定できない場合は再調整してください。それでもしっかりと固定できない場合は、その座席では使用しないでください。本来の機能をはたさず、危険をまねく恐れがあります。

こんなときには

●車のシートベルトのバックルが、チャイルドシートのシートベルト通し穴の角に当たってしまう。

短ベルト(バックルの付いている車のシートベルト)がシートベルト通し穴の角に当たり、しっかりと固定できない場合は、図のように対応してください。



1 タングプレートをはずしてバックルを持ち、短ベルトに数回ひねりを加えて短くします。

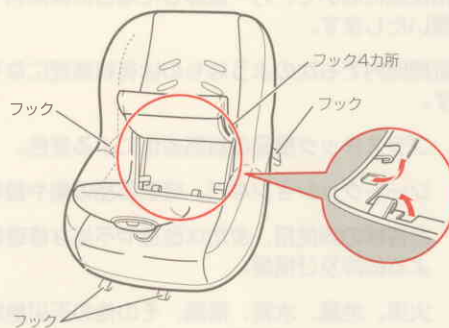
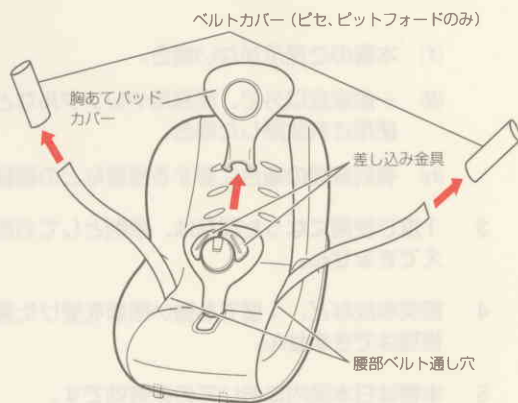
2 もう1度タングプレートを差し込み、固定します。

⚠ 警告

ひねりを加えてもしっかり取り付けできない場合は、ご使用をおやめください。本来の機能をはたさず、危険をまねく恐れがあります。

お手入れの方法

シートクッションのはずしかた



- 1 左右の幼児用ベルトをベルト調節金具からはずし、肩部ベルト通し穴から引き抜きます。
「肩部ベルト通し穴位置の決めかた」(P6)をご覧ください。
- 2 幼児用ベルトからベルトカバー(ピセ、ピットフォードのみ)、差し込み金具をはずします。
胸あてパッドカバーは、裏側のマジックテープをはがしてはずします。
※ 差し込み金具は、左右を確かめて、胸あてパッドのバックルに差し込んだままにしておくと、
取り付けるときに簡単にできます。
- 3 シートクッションの外側にある4カ所のフックをはずします。
- 4 シートクッションのフタを開けて、内側4カ所のフックをはずします。
- 5 胸あてパッドのところからシートクッションをはずし、そのまま上に引き上げます。

株式会社

シートクッションの取り付けかた



- 1 シートクッションを本体の背の部分にかけ、胸あてパッドをシートクッションの中央の穴を広げて通し、シートクッションを全体にかぶせます。
- 2 幼児用ベルトをシートクッションの腰部ベルト通し穴から表側に引き出します。このとき、幼児用ベルトにねじれないようにしてください。
- 3 シートクッション中央のフタを開け、内側のフック4カ所をとめ、シートクッションの外側に着いているフック4カ所をとめます。



- 4 胸あてパッドに胸あてパッドカバーをかぶせ、幼児用ベルトに差し込み金具、ベルトカバー（ピセ、ビットフォードのみ）を通します。このとき差し込み金具の左右表裏を確認してください。
- 5 幼児用ベルトを肩部ベルト通し穴に通し、ベルト調節金具に取り付けます。（ベルト調節金具への取り付けは「肩部ベルト通し穴位置の決めかた」（P6）をご覧ください。）

お手入れの方法

シートクッション、ベルトカバー、胸あてパッドカバーの洗いかた

●洗濯時は下記の項目を守ってください。

 液温は30℃を限界とし手洗いしてください。	 手絞りの場合は弱く、洗濯機脱水の場合は短時間で行ってください。強く絞ると、シワが残ることがあります。	 漂白剤は使用しないでください。
 ドライクリーニングはしないでください。	 日陰で平干してください。	 アイロン掛けはしないでください。

本体、幼児用ベルトのお手入れ方法

通常はかたく絞った布で水拭きしてください。汚れがひどい場合は、中性洗剤を水で薄めた液で汚れを落としてから水拭きし、日陰で乾燥させてください。



⚠ 警告

中性洗剤を原液で使用したり、ガソリン、ベンジンなど有機溶剤の使用はおやめください。本体および幼児用ベルトをいためることになり危険です。